

福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会

第12回建設検討委員会 会議概要

1.開催日時	平成20年11月27日(木) 14:00~15:00
2.開催場所	春日市議会 全員協議会室
3.出席者	<p>委員長(福岡市環境局長) 副委員長(春日市地域生活部長) 委員(福岡市環境局総務部長) 委員(福岡市環境局施設部長) 委員(福岡市環境局総務部計画課長) 委員(春日市地域生活部環境課長) 委員(大野城市環境生活部長) 委員(太宰府市市民生活部長) 委員(太宰府市市民生活部環境課長) 委員(那珂川町住民生活部長) 委員(那珂川町住民生活部環境防災課長) 委員(福岡都市圏南部環境事業組合事務局長)</p>
4.欠席者	委員(大野城市環境生活部リサイクル推進課長)
5.議 題	<p>(1)議事 議題1 中間処理施設処理方式の検討について</p> <p>(2)報告事項 報告1 建設専門部会について 報告2 経営手法専門部会について</p>

(1) 議 事

議題 1 中間処理施設処理方式の検討について

【協議事項】

中間処理施設処理方式の検討については、建設検討委員会専門部会が専門的見地から評価した意見書を基本に建設検討委員会では行政的見地から検討した。

検討項目は下記 4 項目であり、各項目において 3 方式を評価した。

1. 適正で安定的な処理・処分

どの処理方式も、最終処分場候補地の埋立容量以下であるため、安定して最終処分できる。

ストーカ式焼却方式

残渣物の資源化についてはガス化溶融方式には劣るが運転操作の安定性や運転の容易性などの面でガス化溶融方式よりも優れている。

シャフト式ガス化溶融方式

運転の容易性ではストーカ式には劣るが、残渣物については溶融メタル、スラグに関して全量といえないまでも有価での資源化が可能である。

流動床式ガス化溶融方式

可燃ごみの全量破碎と炉内への供給装置が必要となり運転の容易性は他の方式より劣る。残渣物については金属類とスラグに関して全量といえないまでも有価での資源化が可能であるが、資源化ができない不適物が発生する。

2. 信頼性と安全性の確保

公害防止対策に関してはどの方式にも差は認められない。

ストーカ式焼却方式

連続運転可能期間が最も長く、長い稼働実績を基に事故等の対策が講じられており安全性に関して 3 方式の中で一番優れている。また耐用年数に関して一番長い。

シャフト式ガス化溶融方式

稼働実績、耐用年数ともにストーカ式焼却方式の次に長い。

流動床式ガス化溶融方式

稼働実績としての年数、工場数、規模ともに少ない。

3. エネルギーの効率化を含む環境への配慮

エネルギーの効率的な回収に関しては、3 方式に目立った差は認められない。

ストーカ式焼却方式

埋立処分量の削減に関してはガス化溶融方式に劣るが水の使用量が少なくガス化溶融方式に比べ化石燃料をほとんど使用しないため CO₂ 排出量 (約 44,000tCO₂/年) も 3 方式の中で一番少ない。

シャフト式ガス化溶融方式

埋立処分量の削減に関しては 3 方式中で一番優れているが、水の使用量が多く、化石燃料を他の方式よりかなり多く使うため CO₂ 排出量 (約 70,000tCO₂/年) は 3 方式中一番多い。

流動床式ガス化溶融方式

埋立処分量の削減に関してはストーカ式より優位になるが、水の使用量は多く化石燃料の使用量はストーカ式より多いため CO₂ 排出量 (約 48,000tCO₂/年) は 3 方式の中間である。

4. 経済性

最終処分まで含めたライフサイクルコストに関しては3方式中一番安いのはストーカ式焼却方式、次に流動床式ガス化溶融方式であり、一番高いのはシャフト式ガス化溶融方式である。

今回の評価結果を受けて、今後、処理方式に関する答申（案）を作成する。

報告1 建設専門部会について

第10回建設専門部会（10月27日開催）

1. 中間処理施設基本計画について

- ・今後の進め方について審議。

2. 中間処理施設生活環境影響調査について

- ・生活環境影響調査における調査項目等を審議。

報告2 経営手法専門部会について

第1回経営手法専門部会（10月9日開催）

- ・部会長・副部会長の選出。
- ・対象事業の基本条件について審議。